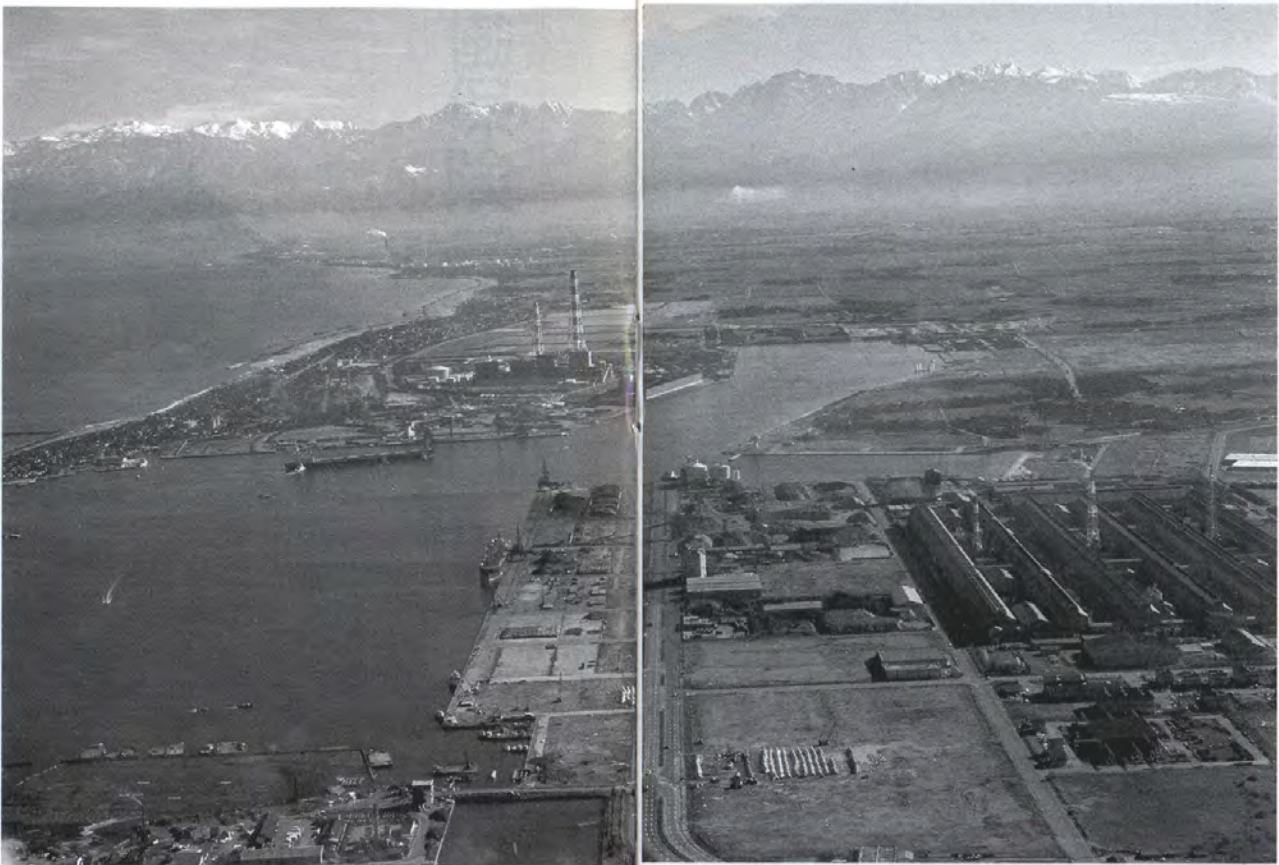


伏木富山港 特定重要港湾に指定

伏木富山港が、外国貿易を増進するため特に重要な港湾として特定重要港湾に指定されました。特定重要港湾の指定は、本州日本海側では新潟港に次ぎ二番目、全国では十九番目となっています。これにより、伏木富山港に対する国内外からの評価が高まり、貨物取扱量の増大、さらには富山県の産業振興への波及効果が大きいと期待されます。県では、この指定を契機としてさらに港の整備、拡充に努めていきます。

伏木富山港の概要

- 一、伏木富山港は、伏木、富山、新湊の三地区からなっており、伏木港、富山港、富山新港とも呼ばれています。このうち伏木港及び富山港は、江戸時代以前から栄えた河口港で、富山新港は、富山高岡新産業都市の海の玄関口として従前の放生津潟を利用して昭和四十四年に開港した掘込港湾です。
- 二、昭和六十一年の伏木富山港の取扱貨物量は約一、二二万トン（外国貿易五七四万トン、内国貿易五三七万トン）で、外国貿易では、輸入が九六パーセントを占め、内国貿易では、移入が七三パーセントを占めています。
- 輸入品目では、原木が三五パーセントを占め、石灰や原油がこれに次ぎ、輸入相手国としては、ソ連、南アフリカ共和国、中国、オーストラリアなど二七か国となっています。
- 輸出品目では、化学薬品などの化学工業品が多く、ソ連など六か国に輸出されています。
- 内国貿易の移入品目としては、原油等の鉱産品や石油製品等の化学工業品が多くを占め、移出品目としては、重油等の化学工業品が多くなっています。
- 三、近年の取扱貨物量の推移をみますと、昭和五十四年の一、二五万トンをピークに停滞していた貨物量も、昭和五十八年を境に増加に転じており、特に新湊地区における昭和六十年の外国貿易量は、過去最高となっています。



▲富山港展望台



▲富山新港埠頭

四、新しい動きとしては、昭和五十九年二月から富山港と小樽港等を結ぶ内貿コンテナ船が米穀類、金属類等を運搬しており、昭和五十九年十一月からは富山新港とソ連のポストーチヌイ港を結ぶ外貿コンテナ船が運航され、特に化学薬品、繊維製品等の輸出に大きな役割を果たしています。

また、昨年五月八日には、伏木富山港と中国大連港との友好港提携の調印が行われました。大連港からは、富山港に毎年数十万トンの原油が輸入されていますが、友好港提携により、友好県関係にある富山県と遼寧省大連港は遼寧省の海の玄関口です」との友好親善が一層深まり、両港間の貿易が拡大することが期待されます。

県では、伏木富山港が一層県民の皆さんに親しみのある港湾となるよう環境づくりに努めていきます。三地区には、それぞれ緑地が整備され、富山港や富山新港には展望台が作られ、港が一望できるようになっていますのでぜひ一度港の眺望を御覧になってください。

特定重要港湾「伏木富山港」のイメージを高めるにふさわしいシンボルマークを募集します。

●応募期限／八月三十一日

●応募作品／B5版のケント紙又は画用紙、色は問いません。

●作品の裏面に簡単な製作意図、住所、氏名、職業（学校名、学年）年齢、電話番号を明記して下さい。

●応募先／富山市新総曲輪一―七

富山県港湾協会事務局内
「伏木富山港」シンボルマーク募集係